

ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティ一誌

12
No. 236
秋号 2018

特集：学びから始める 未来のカタチ
～平成31年1月12日開校！リカバリーカレッジOKAYAMA～



～学びから始める 未来のカタチ～

平成31年1月12日開校！

リカバリーカレッジ
OKAYAMA

リカバリーカレッジとは、「学び」の中からリカバリーを目指そうという取り組みのことを言います。これまでの支援する・されるという関係ではなく、教育学的アプローチでリカバリーを目指していきます。全国的に広まりつつあるリカバリーカレッジ。今回は2018年8月に設立したリカバリーカレッジOKAYAMAの運営委員の皆さんに伺い、魅力と今後のリカバリーカレッジOKAYAMAの取り組みについてご報告します。



リカバリーカレッジ運営委員 坂本明子さん

リカバリーカレッジの特徴

1. 「治療」ではなく「学び」からリカバリーへ
2. 当事者と専門職が力を合わせて運営する
(Co-production=協働)
3. 本人の強みを大事にする
4. ひと中心(Person-centered)
5. 経過していくもの:卒業(Progressive)
6. 地域コミュニティとのつながり
7. 誰でも歓迎

リカバリーカレッジとは？

坂本 リカバリーカレッジは、2009年にイギリス、南西ロンドンにて開校されました。源流はアメリカのリカバリー・エデュケーション・センターといわれています。イギリスでは、精神疾患の体験を持つ当事者（体験専門家）とメンタルヘルスの専門職がお互いの専門性を活かしながら、共に運営しています。リカバリーを実践しつつ、メンタルヘルスに興味のある方を対象として提供される教育モデルのプログラムです。現在イギリスでは40カ所以上開設されています。イギリス以外でもベルギー、デンマーク、イタリア、スウェーデン、ウガンダ、香港などに広まり、国際的ムーブメントとなっています。

イギリスの取り組み

木本 イギリスにおけるリカバリー・カレッジでは、大学を借りたり、元々が病院の病棟だったものを改修してリカバリーカレッジとして、学びの場を作りています。

リカバリーカレッジ 자체は学びの場であるため、いくつか設置条件があります。例えば、リカバリーカレッジには大学の図書館のように立派ではないですがライブラリを設置し、情報にアクセスできるよう、図書コーナーが用意されています。また、パソコンも設置され、自由に情報にアクセスできる場所

があります。

皆でお茶を飲めるような場所やフロ

ントがあるリカバリーカレッジもあり

ます。

坂本 イギリスでは、デイケアをほど

んど廃止していく、デイケアの予算を

転換してリカバリーカレッジのような

学びの場を作っています。ロンドンの

あるリカバリーカレッジは、とてもゴ

ージャスです。寄付のお金等が多いの

と、国からの予算として3年間、2億円

程分配され、国をあげてリカバリーカ

レッジを応援しています。また、地域に

開かれているので色んな方が出入りす

るようなカフェも用意されています。



イギリスのリカバリーカレッジにある図書コーナー

日本における取り組み

リカバリーカレッジの効果

活用して2018年8月に設立をしました。現在2019年1月12日の開校に向けた準備を運営委員の仲間とともに行っています。

木本 日本におけるリカバリーカレッジの展開として、一番早く立ち上げたのは東京都板橋区の「すだち会」が2013年から始めています。「リカバリーカレッジたちかわ」が2015年から取り組みを始めました。岡山、佐賀、愛知等、2018年から2019年にかけて開校するところがいくつあります。

木本 厚生労働省は、精神疾患を5

代疾患の一つに挙げ、医療・回復・福祉の連携によって予防・治療・回復・社会参画にむけた重点的対策を挙げ、メンタルヘルスの課題に取り組んでいます。

しかし、日本においては地域移行が進まず、精神障害者の回復(リカバリー)には様々な障壁が存在しています。

諸外国においては、メンタルヘルスの課題から回復(リカバリー)のために学び実践する機会として、教育的パラダイムが提供されるリカバリーカレッジが効果をあげ注目されています。しかし、日本ではいままだに普及しておらず、継続的な運営についての方策についても確立されていません。国際的には医療保健福祉機関だけでなく、街中でメンタルヘルスの課題から回復を学ぶリカバリーカレッジ(以下、カレッジ)が運営され、効果をあげています。

リカバリーカレッジ OKAYAMAに期待!



リカバリーカレッジ運営委員 木本達男さん

ために学び実践する機会として、教育的パラダイムが提供されるリカバリーカレッジが効果をあげ注目されています。しかし、日本ではいままだに普及しておらず、継続的な運営についての方策についても確立されていません。国際的には医療保健福祉機関だけでなく、街中でメンタルヘルスの課題から回復を学ぶリカバリーカレッジ(以下、カレッジ)が運営され、効果をあげています。

やま 福祉の分野に首を突っ込むようになって強く思うようになったのが、支援を受ける側と支援をする側との意識の隔たりでした。特性や疾患故に、できない苦手な事を補うのが支援であり、当事者に下駄を履かせ、ただ支援者に代わりをさせることは、本当の意味での自立や回復に

杉原 東京での実践としては、当事者と専門職が一緒に協働していく『コ・プロダクション』を実践しています。例えば、会議の場でピアの方も何人か入って会議をするなど、立場を越えて皆で準備に取り組むことが挙げられます。講座の実施に関しても、ピアと専門職がペアで講座を提供するということが原則であり、実践されています。

リカバリーカレッジ OKAYAMA設立へ

杉原 リカバリーカレッジOKAYAMAは、日本財團からの助成金を



リカバリーカレッジ運営委員 やまさん

繋がらないのではと私は考えるようになります。『リカバリーカレッジOKAYAMA』では、当事者・支援者の垣根を超えたところで様々な人が集うことができれば、互いに困難を乗り越えようと手を携えたその先に、それぞれの「リカバリー」が見えてくるはずだと期待しています。

ひると「学び」という視点が好きで、リカバリーカレッジに興味を持ちました。人生の中で起つ辛いことも楽しいことも、「学び」という視点から捉えると、とても大切な経験であると気づくことができると思っています。リカバリーカレッジを通して、様々な人生の経験に触れながら、お互いが自分らしくリカバリーに歩めたらいいなと思います。

たんたん 以前から、リカバリーカレッジOKAYAMAへ関わらないかというお誘いはあったのですが、その時は仕事をしていて、お断りさせていただきました。アルバイトという立場（勝手に気軽に立場だと思っています）なら、自分にできることがあるのではないかという思いから、迷いはありませんでしたが、関わらせてもらいたいことにしました。リカバリーカレッジOKAYAMAに限らず、生



リカバリーカレッジサポーター たんたん

きてきた中で学んだ」とをより深めることが出来たり、活かすことが出来たら楽しいと思っています。

一緒に「自分のために」「自分らしく生きる」ことを学び合いたいと強く想っています！

丸ちゃん 私は平成29年度の岡山県ピアサポート支援事業（養成研修）を企画する時に、リカバリーカレッジを運営されている方々に講師として来て頂きました。みんなが元気になる為に、みんなで学び合う。素敵な事だと感じました。病気を抱え生きているひとりの人として、リカバリーカレッジOKAYAMAのお手伝いが出来ればと…その思いで参加しています。



リカバリーカレッジ運営委員 丸ちゃん

このカレッジでは、自分のためのため」「何のため」に自分が支援するのか、他者と関わるのか等を自問自答しています。そして「リカバリー」や「WRAP」という言葉や考え方に出逢い、世界中の誰もが「自分のため」に「自分らしく生きる」とを考え行動していくんだーと確信しました。



リカバリーカレッジ運営委員 くっしー

くっしー 普段は作業療法士として生活の援助をしています、日々過ごす中で、困難な他の事のせいでもなくぶつっているその人の生きる力を、どうお手伝いしたらよいのか、もう一

さつき ある研修で、リカバリーとは?ということを語り合ったことが

今回、リカバリーカレッジOKAYAMAを通して出逢う全ての人と一緒に「自分のために」「自分らしく生きる」ことを学び合いたいと強く想っています！





リカバリーカレッジ運営委員 さつきさん

あります。結論は出ない、でもお互いの経験談や価値観がどんどん出てきました。そこにある誰もが尊重され、とてもあたたかく希望に包まれた時間でした。その頃から、リカバリーについてもつと語ったり学びたいと思つていました。でもどうやって…と考えていたところ、リカバリーからレッジOKAYAMAが設立されると聞きました。何もないところから何かを創っていくことに不安と苦手意識がありました。この機会は二度とないと思い運営委員をさせて頂くことになりました。当初は「リカバリーカレッジって何?」と聞かれて「えーっと…」とつまづく説明できることがありました。委員会でリカバリーについていろいろな意見を出し、どんなカレッジにしたいかをしつかり話し合いました。そのため必要なアイディアが少しずつ

学びは未来を創る 開かれた学びの場を 街中につくりたい。

形になり、学びの場を創っていくとの実感を持つことが出来ています。「一人では難しいことでも、仲間がいるから出来る」こんなシンプルな喜びを発見できたことが今の私にとって大切な学びです。リカバリーを語った研修の時、心の中に感じていた希望の感覚が自分で進化しています。あの時は、自分の価値観が尊重されることが希望でした。今の私の希望は、いつの日かリカバリーからレッジOKAYAMAが人々の生活に根付き、「今日カレッジに行つてくれる」という言葉が自然に交わされることです。そのためにも、一人でも多くの方にリカバリーカレッジOKAYAMAで学んでほしいと思っています。

坂本 私は、長くソーシャルワーカーとして久留米大学病院の精神科デイケアに勤務してきました。デイケアセンターでは、1990年代ごろからデイケアンバーに病気や治療について学ぶ心理教育というプログラムが行われていました。まだ病気の告知もなされていないことが当た

り前の時代でした。それでも、病気や治療について学んだメンバーは自分の身上に起きたことをより理解し治療を活用して元気になつていかれていました。その後に私は、WRAPなどアメリカでリカバリー志向のプログラムに関心を持ち実践してきました。人はリカバリーするため、いい感じの自分でいるために健康管理をすることができます。多くの方の経験から学びながら、よりよい選択をして自分にできることを増やすこともできます。それがどれだけその人の可能性を広げられるのか。WRAPを使ってお元気になつていく人たちを見て、そして自分の体験からそう思えます。

そんな経験を重ねるうちに、イギリスでのリカバリーカレッジの取り組みを知り、イギリスに視察に参りました。そこでお会いしたリカバリーカレッジのスタッフたちはみな、リカバリー・カレッジが大好きで、その取り組みがどれだけ素晴らしいかをお話しくださいました。リカバリー・カレッジを利用した学生さんたちもその魅力を教えてくださいました。どなたもキラキラしていました。

しかし、残念なことにリカバリー・カレッジは魔法学校ではないです。

「もう少し」と思つて、学ぶことによって今とは違う希望を感じました。

そのうちに私は、WRAPなどアメリカでリカバリー志向のプログラムに関心を持ち実践してきました。人はリカバリーするため、いい感じの自分でいるために健康管理をすることができます。多くの方の経験から学びながら、よりよい選択をして自分にできることを増やすこともできます。それがどれだけその人の可能性を広げられるのか。WRAPを使ってお元気になつていく人たちを見て、そして自分の体験からそう思えます。

特効薬のような方法を伝授するなど治療について学んだメンバーは自分は思うのです。学ぶことによって、さらに自分の未来を自分でつくることができるのではないかと。また家族や友人、支援者も誰もが対等に共に学ぶことによって今とは違う希望を感じられるのではないかと。

や友人、支援者も誰もが対等に共に学ぶことによって今とは違う希望を感じられるのではないかと。また家族



10月27日～28日に行われたリカバリーカレッジ運営委員会宿での様子

リカバリーカレッジOKAYAMAは平成31年1月12日開校します！詳しいお問い合わせや参加希望の方は、あすなろ福祉会ホームページ、またはTEL 086-273-9692 あすなろ福祉会 杉原まで

研修報告

『リカバリーフォーラム2018 ピアサポートの役割と可能性

平成30年9月16日(日)・17日
月)、帝京平成大学池袋キャンパスにて『リカバリー全国フォーラム2018』リカバリーを実現するサービスを求めて、ピアサポートの役割と可能性』が開催されました。リカバリー全国フォーラムは今年で10回目の記念大会です。フォーラムには千人を超える参加者が見られ、会場は熱気に包まれていました。

支援する・されるではなく、開かれた対等で自由な居心地の良い関係性を再構築するというのが、ピアサポートの力ギになります。ありのままの自分を感じ、力を感じ、夢や希望をもつて歩み始められるというのが、リカバリーに繋がってきます。

される側に居続ける状況にいます。対等な関係性というのを忘れかけてしまうことがあります。そのため、これまでの繋がりを改めて意識して再構築するということがピアサポートの役割です。「ピアサポートの接着剤」という言葉があります。何で繋がるのかというところは『同様の経験の語り』です。同様な経験をした仲間同士という点で共通の話題になり、それが接着剤になります。これを、リカバリーストーリーと呼び、ボーフマンが『経験知識』と提唱します。経験的知識や技術というのは専門的知識に比べてより実践的、実用的でより包括的な特徴を持つと説明をしています。

ヒアスタイルとは「自らの人生経験、いわゆる経験的知識を生かして利用者のリカバリーに貢献することで、雇用契約に基づいて働く新たな職種」です。自分の人生経験を生かし

ているかどうか、目の前の利用者の生き方に貢献しているかどうか、という点がポイントになります。人生経験をどのように生かすのかということで、ひとつには経験を語り、きっかけを作ります。自分が元気になるため、カタルシスのために語つても意味はなく、それはピアスタッフとしての役割ではありません。相手にとつて適切に経験の語りを差し出すというのがポイントです。ピアスタッフのポジションについてインタビューやした結果、長続きしてピアスタッフを続けている方は、新しいポジションを作っていたということがわかりました。『サービスの受け手であり、かつ送り手であるという新たなポジションを作る』。そのポジションはピアスタッフ一人で作っているものではなく、システム構成をする人々みんなで作っていくことが重要立場であり、役割葛藤を引き起こすことがあります。採用方法が不明確だったり、一人環境だったり、そして研修・スーパービジョンもない職場が大半です。また、環境で、アンチリカバリー志向というのが作られていることがあります。

今後は、まず雇用方法を明確化すること、きちんと公募して採用条件を明確化すること、そして基本は複数、利用者としての立場を保証すること、研修やスーパービジョンを実施して、一重関係役割葛藤と混乱への理解を示していくこと、守秘義務等バウンタリーへの理解、チームケアの支援体制作り、安定した仕事量と収入、リカバリー志向へのパラダイム転換などが必要となります。

参加者での記念撮影。会場は熱気でつつまれていた。

「リカバリーフォーラムで得たもの」

S.Y

リカバリーフォーラムは本当に楽しかったです。この一言に尽きます。私がリカバリーフォーラムに参加した理由は、病気の自分を乗り越えたかったからです。二回の入退院を経て、ふさぎがちで、引きこもりがちだった自分から、少しでも回復したいところにありました。そんな時にフォーラムの存在を知り、参加してもっと元気になりたいと思うようになりました。

二日間を通して、多くの当事者の方の出会いがありました。彼らはみんなとても生き生きとしていて、正直圧倒され、病気を乗り越えようとする強さを持っていると感じました。みんな自分の意見や考えを持っていて、それぞれの目標に向かって一生懸命に努力している人々でした。彼らと出会って大きな衝撃を受けたし、たとえ病気を持っていたとしても、何も諦める必要はないのだということを教えてくれました。私もいつもほがらかに生きたいと思います。

分科会の一日目は「精神疾患を抱える当事者と家族の丸ごと支援について」の分科会に参加しました。母親が双極性障害だという女性の体験談には大きな衝撃を受けました。病気の母親のもとで暮らし、大きな困難を乗り越えて大人になった彼女はとても力強く優しい女性で、私も日々困難を感じることはあるけれど、彼女のように強く、前向きに歩いていきたいと新たな決意が芽生えました。また、統合失調症を抱えながら、結婚・出産をし、家族で助け合って位ているという女性の体験談にはとても勇気づけられました。私も病気を抱えているけれど、将来は様々な選択をすることが可能なんだと感じられ、安心感のようなものを感じました。結婚・出産はするにしても、しないにしても、自ら人生の選択をし、輝いていける、そんな人でありたいと思います。二日目は「LGBTへの理解と支え合い」という分科会に参加しました。世間では、「男性」・「女性」という枠組みで人間を分けてしまうことが多いけれど、そうではなくて、それ以前に「人として」という視点が大事なのではないかと実感しました。女性が女性として輝くことにも大きな価値があるけれど、それ以前に人としてキラキラしている人、そんな人になれたらと思います。

最後に、二日間を通して多くの当事者の方々から大きな感動をもらい、私の人生にとっても大きな財産となる出会いをたくさん重ねることができました。感謝の気持ちを忘れずに、恩返しをするつもりで毎日を大切に丁寧に生きていきたいです。どんなことがあっても、明るさを失わずに、笑顔を忘れずに、強く歩める人、そんな人でありたい。そして、周りの人々をも照らせるようなそんな存在になってきたい。忘れられない思い出に感謝し、謙虚に彩豊かな日々を重ねていきたいと思います。

リカバリーフォーラムに参加して Y.H

リカバリーフォーラムでは、皆さんのが自分の思いや意見をしっかりと持っていることに感心いたしました。そもそも私がフォーラムに参加させていただこうと思ったのは、自分を変えていきたいと思っていたからです。参加したらすぐ変われると思った訳ではありませんが、一つのきっかけになればとの意識ではありました。しかし実際参加してみると、いろいろな事が刺激的で自分の考え方や行動に何かしらの影響を受けたように感じています。今までの自分は、どうして病気の事を分かってくれないのかと、両親に理解してもらいたいと不満に思っていましたが、今は全国に私と同じような思いをしている人が大勢

いると分かって、自身の一人よがりな考えを捨てようと自覚しています。参加して少し気が楽になり前へ進めるような気がしています。少し前向きになれたかなと思っています。前向きになれそうだということは希望が持てると、我ながら少し家庭での暮らしも明るくなっているように感じています。まさか、これ程リカバリーフォーラムに行ったことで自分が変わると思いませんでした。参加させていただいて本当に良かったと思っています。



MOMO
オリジナル一筆箋

じもました！



秋期「癒し場」報告♪

岡山市のブリッショアップ事業に応募し、デザイナーさんに入っていたとき、それを他の参加者一人一人に MOMO のメンバーさんが描いた絵をもとに、オリジナル☰☰☰☰一筆箋を作ることができました。

癒し場は、参加者一人一人から「話したい事」を教えて頂き、それを他の参加者一人一人にコメントして頂く座談会グループトークです。バスや保留、途中参加や途中退出が可能、一番大切している事は他人を批判しない事、他人に強く何かを勧めない事です。話の内容から答えを出すではなく、それぞれがそれぞれの発言から自分の感じる『イトコドリ』をする場です。そんな中で、参加者同士の共感が有つたり、それぞれの個性の尊重が有ればと思つて毎月開催しています。

毎月の内容です。

- 一月（参加者七人）
 - ・仲間作りをどうやっていますか？
 - ・早起きが出来るようになりますか？
 - ・疲れやすさに、どう向き合っていますか？
 - ・部屋の片付けがすすまない：
 - ・あなたにとって、自分らしさって何ですか？
- 二月（参加者八人）
 - ・人との距離について、どう対処していくですか？
 - ・（障害やトライアスマなどが有る中で）どうやって自信を持って生活していくですか？

十一月十五日には商談会もあり、県内の書店、ホテル、販賣店など話をさせていた

きました。
今後の展開に乞うご期待！

今日は自分の内面にある等等感に關注するテーマが多かったです。専門知識に関するテーマもありました。

これからも参加する事で、仮に答えが出なかつたり見通しが立たなかつたとしても、参加者の方の孤独や不安が和らぐ場、「癒し場」であるように運営していきたいと思うので、皆さんの御参加を心から御待ちしています。

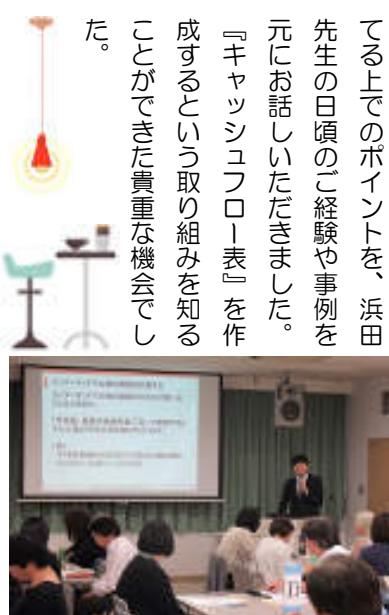
ちなみに参加者の声で一番多いのは「思つていた以上に、意外に自分に似た（似たような経験がある）人がいる事を発見出来た」です。



今回、『親亡後を生きのびる支援～お金に関する将来の見通しの立て方～』と題し、東京から浜田裕也先生（社会保険労務士・ファイナンシャルプランナー）をお招きし講演頂きました。前半の講義では、

ひきこもり当事者・家族共に、親亡き後の将来やお金に関する不安が大きいため、早い段階で家族の財産とひきこもり当事者の収入（主に公的年金）で当事者の一生涯の生活費がまかなえるかどうかを試算し、将来の見通し（生涯設計）を立ててお話し頂きました。後半のグループワークでは、将来の家族の財産と当事者の収入で、お子さんが亡くなるまでお金がもつか？お金が底をつくしたら、今から何年後か？という見通しを立てた『キャッシュフロー表』を、事例を元に作成しました。「仮に十分なお金が準備できても、当事者に将来の見通しを伝えておくほうが望ましい、現実を伝えることを先延ばしにしていた家族の中には、家族仲があまり好ましくない状況になっているケースもあった」「キャッシュフロー表を作成しつぱなしにするのではなく、結果を踏まえ対策を立てる必要がある。その際に当事者を非難するのではなく、家族は味方であることを伝えてる上でのポイントを、浜田先生の口頭の「経験や事例を元にお話し頂きました。『キャッシュフロー表』を作成するという取り組みを知ることができた貴重な機会でした。

平成三十年度ひきこもり支援従事者研修 開催！





あすなろで使える金券!!
でした。

『大阪・神戸で海風を感じ
る。あすなろ大人旅 in 2018
1.8』という情緒あふれるテ
ーマでした。バスの中では恒
例のバスレクを行い、名前ビ
ンゴ、ハニィなぞなぞ、行き
先クイズなど、みんな盛り上
がりました。今回の豪華景品
は…宇宙食！（実行委員が一
番食べたがっておりました
が笑）

平成30年1月16日
(金)、例年冬に行っている
あすなろ忘年会を、今年は
秋に！そして日帰りで、
神戸と大阪を旅してきました
☆



あすなろ大人旅 in 2018

秋の旅行

あすなろで使える金券!!
でした。
メインのシンベーハザメの迫力もさることながら、他
のたくさん魚や海の生き物達に圧倒されましたね。
多くの方が食べたであろうシンベーハンバーグ：わく、何
味だったでしょうか…。
帰りには、イントロクイズとカラオケをして、みんなに感想を聞いて回りました。「田帰りだからバタバ
タするかもと思っていたけどゆつくりできて良かつ
た」「楽しかった」「バイキングが美味しかった」と喜
んでもらいました。
また来年もイベントを企画しますので、よろしくお願
いします！

次は大阪・海遊館です。道中車内ドライブとしてい
た方も、海遊館に着いたら目を輝かせて楽しんでいま
した。



神戸モザイクに到着して、しば
しの自由行動。のんびり港町の散
策をしたり、海や船を眺めたり、
色々な雑貨屋を見て回ったり。み
んな楽しく過ごしました。
歩き回ってお腹が減ったといひ
で、待ちに待ったホテルバイキン
グ。神戸牛ステーキ、お寿司、蟹、
なごみ豪華メニューが盛り沢
山！美味しいかった☆

アスナローズ



秋のもも太郎杯

準★優★勝

決勝戦となる三試合目の相手は
「ガンバローズ」さんでした。絶好
調だった攻撃も、ガンバローズさん
の守備力の高さに圧倒され…惜し
くも七一八で敗れてしましました。
しかし、結果としては準優勝を勝
ち取りましたーおめでとうー！一日
三試合となるべくヘトヘトになりました
が、前回の春大会より良い成績と
なり、嬉しい結果となりました。
選手のみなさん、応援でかけつけ
てくれたみなさん、お疲れさまでし
た！

一一月三〇日に秋のもも太郎

杯が奥市グラウンドで開催されま
したー今回「アスナローズ」は応援
も含め、一〇名が参加されました。

今大会、「アスナローズ」の攻撃は
絶好調！ヒットやホームランが続
出しましたー一試合目は「ティルキ

ングス」さん、二試合目は「万成フ
エニックス」さんと対戦し、見事勝

利する事が出来ました！
決勝戦となる三試合目の相手は
「ガンバローズ」さんでした。絶好

調だった攻撃も、ガンバローズさん
の守備力の高さに圧倒され…惜し
くも七一八で敗れてしましました。

しかし、結果としては準優勝を勝
ち取りましたーおめでとうー！一日
三試合となるべくヘトヘトになりました
が、前回の春大会より良い成績と
なり、嬉しい結果となりました。

選手のみなさん、応援でかけつけ
てくれたみなさん、お疲れさまでし
た！

投稿・募集
コーナー

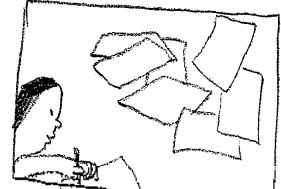


「統失デビュー11周年」vol.14 ふじ一歩

苦しい時、
ずっと自分に
言葉を書いていた



そしたら……



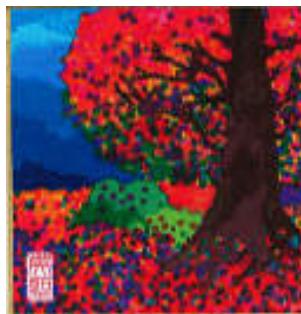
本当に



大丈夫になつた



世界的な企業の合併が、欧米の企業を中心にして繰り広げられている理由も、これでおわかりいただけるのではないかと思う。日本は国家レベルでこそ世界第三位の経済規模を誇るが、企業レベルでは、大企業ですらじつのところ欧米の有力企業の足下にも及ばないのではないのだろうか。マスコミなどが、日本製品の品質の良さを強調したがるのは、それ以外の事柄では、すでに欧米の企業に太刀打ちできないところまで来ているからだと思う。日本経済は、案外正念場なのかもしれない。



↑ ENDLESS HISTORY

紅葉への想ひ…

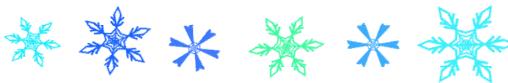
英聖 作



↑ ENNDLESS ISTORY

Never give up your dream

英聖 作



『アニメを見ました。凄く、良かったです…』♪

坂本友加より



ぱるっこ広場



ぱるっこ広場投稿募集！

イラストやポエム、写真など作品を出してみませんか？
投稿お待ちしています！

メールでも受け付けています。件名に「ぱるっこ広場」と記入の上、ぱるおかやまのアドレスまでお送り下さい。

今、仮に外国為替相場が一ドル一二〇円だとする（十月四日午後一時の時点）でだいたい二四円）。そして仮にある日本企業の売上高が一兆円だとする。そしてさらに、仮にあるアメリカの企業の売上高が一兆ドルだとする。そうだとすると、このアメリカの企業の売上高は日本円になおすと一二〇兆円だということになる。

なにがいいのかというと、日本円とアメリカドルというこの二つの通貨は、すでに価値の時点でこれほどの差があるということだ。初めからこのような差がある状態で、いくら日本の企業が「売上高が一兆円を突破しました」といったことをいつたところで、それをアメリカの優良企業と比較すれば、結局微々たるものではないのだろうか。そういう中で世界各国の企業が国際競争を展開すれば、日本企業が徐々に追い詰められていくのは想像に難くなっている。

古楽日和

ニガハヒヨウ

藤井 健喜

■発行：社会福祉法人あすなろ福祉会

■〒700-0822 岡山市北区表町3-7-27

■編集：ぱる・おかやま

■TEL:086-201-1720 FAX:086-201-1713

■E-mail:pal-oka@mx35.tiki.ne.jp

■ホームページ:<http://asunaro-fuku.jp/>

いつもぱる通信を愛読いただきありがとうございます。29年度より、ぱる通信は春号(4月)・夏号(8月)・秋号(11月)・冬号(2月)発行となります。今後ともよろしくお願ひします。